

生涯学習だより

問 教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

青少年指導員の活動内容を教えてください

子どもたちの健全育成のためにご活躍いただいている松田町青少年指導員の遠藤真弘会長に、最近の活動の様子を伺いました。

小学5、6年生を対象とした夏のジュニアキャンプや4年生を含めた体験学習など子どもたちの思い出に残る活動を企画・運営しています。また新年には「はたちの集い（成人式）」をサポートしています。

子ども対象の活動としては、コロナ前には、ジュニアキャンプで川遊びやキャンプファイヤー、流しそうめんやスイカ割りなどを行いました。今年度のキャンプは、7月23日（日）、24日（月）に愛川ふれあいの村で実施しました。6つのゲームをクリアするアドベンチャーラリーやキャンドルファイヤーで盛り上がりました。

秋のイベントは、そば打ち体験や、イモ掘り体験、マス釣りと火起こしで魚を焼いて食べるなど、地元での体験や地域の人との交流を大切にしています。また松田小学校と寄小学校、学年を越えたチームワークとコ

ミュニケーションを培う目的もありますが、大人との距離も含めて、この短期間で打ち解ける速さにはいつも驚かされています。

町民の皆さんにお伝えしたいことはありますか？

この記事を読んで青少年指導員の活動にご興味をもたれた方、松田っ子的のため一緒に活動してみませんか。詳しくはご説明いたしますので、ご自身もしくは紹介できる方がいましたらご連絡ください。青少年指導員一同お待ちしております。



ジュニアキャンプの事前指導の様子

松田文化財探訪

松田の関東大震災 その4

文化財保護委員 桐生 海正

寄地区の被害
これまで松田に残された碑をもとに震災の被害や復興の状況を見てきました。一方、寄地区（当時寄村）には、残念ながらこうした碑は私が知る限り、残されていません。そこで、文献資料から寄地区の被災状況に迫ってみましょう。昭和九（1934）年に寄尋常高等小学校が作成した「読本教材を主とする郷土資料」という資料があります。資料には、寄村の沿革や神社仏閣、地勢、産業などについて記されています。また、震災から約10年後にまとめられたため、随所に震災に関する記述が見られます。

「大正十二年ノ震災」から

寄地区の被災状況を抜き出してみます（資料は現代語訳しました）。

大震災は、この楽土に晴天の霹靂となった。山岳の大半

は崩壊し、流水や土砂により水田の埋没は全体の三割強に及んだ。被害の及ぶところは計り知れない。（後略）

震災を経験した方が書いたリアルな記述です。この後には、村民が苦勞して造った道路が見る影もなく損壊したと、復旧には多額の費用がかかり、村の財政を圧迫したことが記されています。次回以降、この資料を手がかりに寄地区の被害や復興の状況をより深く掘り下げてみたいと思います。

なお、この資料は松田町図書館に原本が収蔵されており、どなたでもそのコピーを閲覧することができます。

と主として「郷土資料」を（松田町図書館蔵）

